



[kaminorippo.org](http://kaminorippo.org)

## 付録8h: 神殿に関わる部分的・象徴的な服従

このページは、エルサレムに神殿が存在していた時にのみ守ることが可能であった神の律法を探究するシリーズの一部です。

- [付録8a: 神殿を必要とする神の律法](#)
- [付録8b: いけにえ — なぜ今日それを守ることができないのか](#)
- [付録8c: 聖書の祭り — なぜ今日そのいずれも守ることができないのか](#)
- [付録8d: 清めの律法 — なぜ神殿なしでは守ることができないのか](#)
- [付録8e: 十分の一と初物 — なぜ今日それらを守ることができないのか](#)
- [付録8f: 聖餐 — イエスの最後の晩餐は過越であった](#)
- [付録8g: ナジル人と誓願の律法 — なぜ今日それらを守ることができないのか](#)
- [付録8h: 神殿に関わる部分的・象徴的な服従](#) (現在のページ)。
- [付録8i: 十字架と神殿](#)

現代宗教における最大の誤解の一つは、神がご自身の与えられた戒めの代わりに、部分的な服従や象徴的な服従を受け入れられる、という思い込みです。しかし、神の律法は精密です。預言者たちを通して、またメシアを通して示された一語一語、一つ一つの細部、境界線のすべてが、神の権威そのものの重みを持ちます。付け加えてはならず、取り除いてもなりません(申命記 4:2; 申命記 12:32)。人が神の律法の一部でも、変更できる、和らげられる、置き換えられる、作り替えられると決めた瞬間、その人はもはや神に従っていません——自分自身に従っているのです。

### 神の精密さと、真の服従の本質

神は曖昧な戒めを与えられませんでした。神は正確な戒めを与えられました。[いけにえ](#)を命じられたとき、動物、祭司、祭壇、火、場所、時刻について、細部まで定められました。[祭り](#)を命じられたとき、日付、供え物、清さの要件、礼拝の場所を定められました。[誓願](#)を命じられたとき、始まり方、続け方、終わりを定められ

ました。十分の一と初物を命じられたとき、何を携え、どこへ携え、だれが受け取るのかを定められました。どれ一つとして、人間の創意や個人的解釈に依存していませんでした。

この精密さは偶然ではありません。律法を与えられたお方の御性質を映し出しています。神は決して不注意ではなく、決して「だいたい」ではなく、即興を許されません。神は、人が「こうであってほしかった」命令ではなく、神が実際に命じられたことへの服従を求められます。

したがって、だれかが律法を部分的に守ったり、必要とされる行為を象徴的行為で置き換えたりするなら、その人はもはや神に従っていません。自分自身が作り出した「命令の版」に従っているのです。

## 部分的服従は不服従である

部分的服従とは、命令のうち「簡単」または「都合のよい」要素だけを守り、難しい、費用がかかる、制限があると感じる要素を捨てる試みです。しかし律法は断片ではありません。選択的服従は、無視した部分について神の権威を拒むことです。

神はイスラエルに対して、戒めの細部一つでも拒むなら、それは反逆であると繰り返し警告されました（申命記 27:26；エレミヤ書 11:3-4）。イエスも同じ真理を確認され、最も小さい戒めの一つでもゆるめる者は天の御国で最も小さい者と呼ばれると言われました（マタイの福音書 5:17-19）。メシアは、難しい部分を捨てて残りだけ守ることを許されませんでした。

また、神殿に依存する律法は決して廃止されていないことを、だれもが理解しなければなりません。神が取り除かれたのは神殿であって、律法ではありません。律法を完全に守ることが不可能な場合、部分的服従という選択肢は存在しません。礼拝者は、律法を変更することを拒むことによって律法を尊ばなければなりません。

## 象徴的服従は、人が作った礼拝である

象徴的服従は、さらに危険です。これは、人が守れなくなった命令を、元の律法を「尊ぶ」つもりで象徴行為に置き換えようとすることです。しかし神は、象徴的な代用品を許可されませんでした。神殿が立っていた時点でさえ、いけにえを祈りで置き換えたり、祭りを黙想で置き換えたりすることを、神はイスラエルに許されませんでした。象徴的なナジル人の誓願も、象徴的な十分の一も、許可されませんでした。どこでもできる簡略版に置き換えてよい、と神がだれかに告げたことは一度もありません。

象徴的服従を作り出すことは、服従が物理的に不可能になったことが神の想定外だったかのように装うことです——まるで、神がご自身で取り除かれたものを、私たちが「再現」して助けなければならないかのように。しかしこれは神への侮辱です。神の戒めを柔軟だとし、神の精密さを交渉可能だとし、神の御旨を人間の創意で「補助」すべきものとして扱うからです。

象徴的服従が不服従である理由は、神が語られた命令を、神が語られなかった何かと置き換えるからです。

# 服従が不可能になったとき、神が求めるのは置き換えではなく、抑制である

神が神殿、祭壇、レビ系の奉仕を取り除かれたとき、神は決定的な宣言をなさいました。すなわち、ある戒めはもはや実行できない、ということです。しかし神は、それに代わる何かを設けることを許可されませんでした。

物理的に守れない戒めへの正しい応答は単純です。

神が服従の手段を回復されるまで、行わないこと。

これは不服従ではありません。神ご自身が定められた境界に従うことです。主を恐れ、へりくだりと抑制をもって表すことです。

律法の象徴版を発明することはへりくだりではありません——献身の装いをした反逆です。

## 「できる変形」の危険

現代宗教はしばしば、神が不可能にされた戒めに「できる変形版」を作ろうとします。

- 過越のいけにえの代わりとして発明された聖餐
- 神が定義された十分の一の代わりとなる「十パーセント献金」
- エルサレムで命じられた供え物の代わりとなる「祭りのリハーサル」
- 実際の誓願の代わりとなる象徴的ナジル人実践
- 聖書の清め制度の代わりとなる儀礼的「清さ教育」

これらはすべて同じ型に従っています。

1. 神が正確な命令を与えられた。
2. 神が神殿を取り除かれ、服従が不可能になった。
3. 人が、実行できるように改変した版を発明した。
4. それを「服従」と呼ぶ。

しかし、神はご自身の戒めの代用品を受け入れられません。神が定義された服従だけを受け入れられます。

代用品を作ることは、神が誤りを犯した、とほのめかすことになります——神は継続的服従を期待したのに、服従の手段を守れなかった、という含意です。これは、神の知恵への侮辱です。

## 今日の服従：律法を変えずに尊ぶ

今日の正しい姿勢は、聖書全体を通して求められている姿勢と同じです。神が可能にされたことはすべて守り、神が不可能にされたことは改変しないことです。

- 神殿に依存しない戒めは守る。
- 神殿に依存する戒めは、改変を拒むことによって尊ぶ。
- 部分的服従を退ける。
- 象徴的服従を退ける。
- 神が命じられたことを、神が命じられた方法でのみ守るほど、神を恐れる。

これが真の信仰です。これが真の服従です。それ以外は人が作った宗教です。

## みことばの前におののく心

神は、みことばの前におののく礼拝者を喜ばれます(イザヤ書 66:2)——便利にするため、可能にするためにみことばを作り替える礼拝者ではありません。へりくだった人は、神が一時的に手の届かないところに置かれた律法を置き換える新しい律法を発明しません。服従は、神が実際に語られた命令と一致しなければならないことを知っています。

神の律法は完全なままです。何一つ廃止されていません。しかし、今日すべての命令が守れるわけではありません。忠実な応答は、部分的服従を拒み、象徴的服従を退け、神が与えられたとおりに律法を尊ぶことです。